受験期における『読解力と表現力を高める SDGs 英語長文』を用いた指導例

西武学園文理高等学校　土屋 進一

はじめに

近年、SDGs という名称は、広く世間に認知されており、学校教育においても総合的な探究の時間などでその内容に対する主体的・対話的で深い学びが行われている。新学習指導要領に基づいた英語の教科書においても、その多くが SDGs に対応した題材を扱っている。

このように、SDGs を題材とした教材がますます増加傾向にある中で、SDGs を中心に構成された『読解力と表現力を高める SDGs 英語長文』は、その先駆けともいえる良書であろう。

本稿では、SDGs に関連したテーマによる受験期における指導例を提示したい。

１．SDGs を切り口とした読解指導①

ここでは、『読解力と表現力を高める SDGs 英語長文』を用いた具体的な指導について論じたい。Lesson 1 は、Water Crisis のテーマで、インドにおける水事情に関する英文を扱っており、中心となる SDGs の目標は、次の通りである。

Goal 6 Clean Water and Sanitation
すべての人々の水と衛生の利用可能性と持続可能な管理を確保する

読解の前に写真（乾燥地帯を頭の上に大きなバケツのようなものを載せて歩いている女性と子供）を見ながら、次の 1)～4)のように Q&A 活動を行ってスキーマの活性化を図り、読解への準備としての Introduction が設定されている。

1） What country is this?
2） Why do you think so?
3） What are they doing and why?
4） Describe the picture in your own words.

次に英文を読み、WPM を測りながら、TF などの内容理解の問題に取り組む。さらに、And more のコーナーでは、読解後に日本の水事情に関する短いパッセージを読み、自分事に落とし込んで、節水や水の無駄遣いを少なくするための方策を簡単な英語で書くタスクに取り組めるようになっている。

筆者は、獲得した知識をより深める工夫を行うため、次のように指導順序を入れ替えて指導を行った。まず、Lesson 1 の Water Crisis の水問題を切り口とし、次に Lesson 7 の Virtual Water（仮想水）に取り組ませ、水問題を別の観点から深掘りすることにした。中には、牛肉の生産には 20,600 リットルの水が必要であることを知り、驚きの表情を見せる生徒もいた。　このような事実を英文から読み取り、日々の生活の中で食事のメニューにどのくらいの水が使われているかを意識することで、水問題に関してさらに自分事化に持ち込むことができた。

このように、水問題の切り口から２つの背景知識を得た後で、Virtual Water（仮想水）に関する 2013 年の早稲田大学教育学部の問題に取り組ませた。生徒は、英文を読むに当たっては、単語や文法・構文といったものばかりを追い求めがちだが、背景知識の有無が英文理解に影響を与えることを実感したようだった。

２．SDGs を切り口とした読解指導②

同様に、Lesson 2 は Palm Oil のテーマで、油ヤシのプランテーションで働く子供の体験を題材としている。

導入として、次のような筆者オリジナルの発問を追加し、日常生活から世界情勢と教材を近づける工夫を施した。

（導入の追加発問）

（図１）

この発問によって、日常生活の現状が、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の影響があることが確認できた（図１）。

さらに、それがなぜインドネシアの油ヤシ価格の高騰につながっているのか、インドネシアのニュース番組を見せ、適切なリスニング学習を行った。こうすることで、生徒にとって遠い存在であった Palm Oil がより身近に感じられるようになったと考えられる。

（図２）

Lesson 1 と同様 Lesson 2 も、写真に関する Q&A で背景知識の活性化を図り、読解への橋渡しをする構成となっている。Reading のセクションでは、WPM を計測し、内容理解の問題に取り組む。さらに、And more のセクションでは、油ヤシのプランテーションで働く主人公の子供とその母親、父親、プランテーションの経営者、環境専門家、政府の立場に立って望んでいることを考えた。それぞれの立場で考えさせることによって、生徒の深い思考へとつながった。

次の授業では、テキストで得た背景知識を基に、2012 年の関西学院大学社会・法・人間福祉学部の入試問題に取り組んだ。この英文は、ボルネオ島とスマトラ島に生息し、絶滅の危機に瀕しているオランウータンがヤシ油採取のための森林伐採で、棲みかが奪われているという内容である。地元の人の経済を優先すべきか動植物の保全を優先すべきかという考えさせられるテーマであり、ヤシ油の切り口からさらなる視点で考える良い機会となった。

３．SDGs を切り口とした読解指導③

Lesson 3 では、海洋プラスチックゴミの危険性を扱っている。このテーマも我々の生活に根ざした問題を浮き彫りにしており、生徒は身近に感じたようだ。問題解決のためにどのような取り組みが行われているのかを知ることも必要と考え、追加教材としてこの問題に実際に取り組んでいるオランダ人青年を取り上げているニュース（『CNN English Express』）の動画に取り組ませた。本格的な素材は受験期であっても、生徒の興味・関心を大いに刺激する。リスニング力強化と同時に、同世代の若者が地球環境のために実際に行動していることを知ることで、内容面に関しても大いに刺激を受けたようだった。

４．SDGs を切り口とした読解指導④

Lesson 10 では、難民問題を扱った２つのテーマが収められている。１つが、ユダヤ人を救った杉原千畝、もう１つがシリア難民問題である。２つのストーリーから「自己犠牲」という共通点を見出し、「自分ならどうするか」という視点でライティング活動まで無理なく指導できる構成となっている。まさに「自分事化」するにはうってつけの題材であろう。

また、このことを踏まえて、2020 年度の青山学院大学法学部の入試問題にも取り組ませた。狙いとしては、シリア難民の現状を背景知識として学んだ後に別の視点での支援方法を読み取ることで、

深い学びへとつながるように指導することである。

５．SDGs を切り口としたライティング指導

上記４のシリア問題に関する背景知識を広げてから「自分事化」し、意見を書く指導を行った。質問と評価条件は、次の通りである。

（質問）

What is one of the best practical ways to help refugees? Write your opinion in around 50 words.

【「書くこと」における評価の条件】

《条件１》：本文で学習した考え（方法）ではなく、自分の考え（方法）を述べている。

《条件２》：自分の意見を理由とともに述べている。

《条件３》：読む相手にわかりやすくなるように工夫している。

（生徒の答案例）

I think ①to make some more opportunities for ②education for refugees is one of the best practical ways to help ③refugees. It is because ④knowledge always ⑤tells us the novel ways to escape from our ⑥mean circumstances and improve them. Indeed refugees might come up with a unique idea that could stop ⑦the war.

（原文）

（添削後の答案）

I think ①making some more opportunities for ②the refugees' education is one of the best practical ways to help ③them. It is because ④having knowledge ⑤can help understand the novel ways to escape from ⑥ difficult circumstances and improve them. Indeed, refugees might come up with a unique idea that could stop ⑦wars or other troubles.

（添削後）

【添削のポイント】

①原文は不定詞を用いているが、「当面の事柄にどう対処するか」という意味合いが強い動名詞とした。
②for の繰り返しを避け、より自然な英語とした。
③代名詞によって繰り返しを避けた。
④知識そのものだけでは、支援にはならず、知識を「持っていること」がその後の支援につながるので、having とした。
⑤④と関連するが、知識そのものが人に何かを tell する（教える）ことはないので、can help understand とした。
⑥mean には、「意地の悪い」などのネガティブな意味もあるが、circumstances とのコンビネーションが良くないので、より一般的な形容詞 difficult とした。
⑦すべての難民が戦争の理由とは限らないので、the で限定することなく、冠詞なしの複数形にすることで一般化し、その他の理由もあるので or other troubles とした。

文法・語法的な添削は、上記①～⑦の通りであるが、特筆すべき点として、『SDGs』テキストの使用によって内容面での背景知識が培われたことが挙げられる。ともすれば、難民援助と言えば、食料や衣服などの生活必需品の支援を思い浮かべる生徒は多い。このことはもちろん大切な支援である。しかしながら、テキスト本文を読むことによって、教育の観点からの支援を新たな視点として持つことができ、そのことを自分の答案にうまく組み入れることができたのは、大きな成果であるように思う。

書くことに関しては、ある程度の英語力があり、ライティングのフォーマットを知っていたとしても、自分の考えを論理的に英語で書くことは、難しい。英語で論理的に自分の考えを発信するためには、世の中で実際に起こってることを自分事として捉え、常に自分の意見を考える思考訓練をすることが必要となろう。そのためには、リーディングを単なる理解だけにとどめることなく、本書を用いて critical thinking を伴った高次の思考を育成するような指導を心掛けなければならない。

6. おわりに

本稿では、SDGs を切り口とし、受験期における入試問題演習を行う上で、目の前の入試問題が単なる受験のために得点を取るための教材ではなく、リアルな世界とつながっていることを意識させる指導例を提示した。

SDGs の切り口はまた、社会や理科などの教科横断的視点を持った指導にもつながりやすいのではないかと考える。生徒にとって様々な教科を横断的に学ぶことは、それぞれの教科・科目で学んだ知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力を育成する絶好の機会となるであろう。本稿が先生方の指導の一助となれば幸いである。

お問い合わせ

今回の授業で使用したパワーポイント資料(PDF)をご希望の方は、下記のメールアドレスにお名前・ご勤務先・この記事に関するご意見・ご感想・ご質問などをお書きの上、送信してください。資料は１週間以内に必ずお送りいたします。

また、教員向けの講演や先生方の勤務校での授業実施（示範授業）のお問い合わせなどもお待ちしております。

西武学園文理高等学校
土屋進一
tsuchiya@bunri-s.ed.jp